

「旧東海道の活用について」に関する研究

静岡産業大学 情報学部 堀川知廣ゼミ

教 員：教授 堀川知廣

参加学生：森野あすか、大野佑佳、大庭雄太、高瀬直樹、
内藤鮎美、松田匡平、レイ ウィン ティン

1 要約

旧東海道の魅力を多くに人たちに知ってもらうとともに、市民が旧東海道沿いの街やイベントなどをツイッターで情報発信や受信ができ、常に最新の情報を、市民や訪問者が双方向で情報交換ができる仕組みを構築するため、施設やお店などの固有のQRコードを張り付けたマップを作成した。マップに掲載した施設やお店には固有のQRコードを印刷したパネルを配布し、それぞれがツイッターに最新情報をつぶやきできるようにした。このマップを使って若い人たちが藤枝を訪問し、ツイッターで感じたことや映像を発信することで、藤枝の街の活性化に結び付ける。

2 研究の目的

藤枝市には、岡部宿、藤枝宿、瀬戸染飯伝承館（旅人の休憩所）などがあるが、宿場などの個々の活動だけで連携ができていない。また、歴史的な道を活かしきれていない。そこで、宿場が連携し、旧東海道の魅力発信するとともに、東海道を歩く人にとって、歴史文化を感じることができる東海道にするため、宿場などが連携する手法と旧東海道の利活用を提案する。

3 研究の内容

藤枝市の市民が連携し、旧東海道の魅力を発信するとともに、藤枝市内の旧東海道沿いを訪れる人、市民、施設やお店を運営経営している人たちが、感じたことや映像、商品やイベントなどの最新情報などをSNSで発信することで、藤枝を広く知ってもらえることができるよう、代表的なSNSであるツイッターに直接つながるQRコードを張り付けた新しい発想のマップを作成、配布する。

4 研究の成果

(1) 当初の計画

SNSで発信したくなる旧東海道のある街となるよう、歴史、文化、施設、人、モノ、空間、食べ物、イベント、体験等が、この地を訪れる若者などに一目でわかる街道マップを作成する。

具体的には、①既存の資料から、街道沿いの見どころ、魅力的な商品、おいしい店、面白人物などをピックアップ ②学生が街道とその周辺を歩き、映像撮影、住人、土産物や特産品など、学生目線で興味あるモノ・ヒト・コトを、ツイッターで発信する画像・文章に作成 ③以上の内容を学生がデザインしたマップにイラストを入れて書き込み、施設やお店の固有のQRコードを作成し、これをマップに張り付け、スマホなどでQRコードを読むと、各施設やお店などのツイッターにつながり、つぶやきの内容を確認できるようにする。

(2) 実際の内容（Aは予定どおり）とその理由

ツイッターは若者達が自らの体験や出会いを映像と文章でつぶやき、このつぶやきを受け取った人たちが、さらにツイートすることで、情報が広く早く伝わりとともに、紙ベースの観光地図

では伝わりにくい最新の情報も伝えることができる。また、ホームページのように、作成者が伝えたい情報とは違い、ツイートする者が、感じたままを伝えることで、様々な評価を知ることができる。

このような特性を生かし新しいタイプのマップ作りを行った。

研究をスタートするにあたって、藤枝に関する既存のマップや資料を集め、マップに掲載するモノ、コト、ヒトを選定し、学生がそれらを訪れ、体験し、味わい、インタビューし、映像と文章を作成。また、訪問した施設やお店に固有のQRコードを設定し、QRコードをスマホなどで読み込むと、その施設やお店のツイッター画面につながるようにした。また、QRコードをマップに張り付け、マップからQRコードを読み込むとツイッター画面が現れるようにした。また、施設やお店には、それぞれのQRコードを印刷したポスターを作成配布した。

藤枝市を訪れた人たちはこのマップから、施設やお店の情報（つぶやき情報）を得ることで、施設やお店も自らイベントや新商品、近所の出来事、同業者の動きなどをつぶやくことで、ツイッターを見た人たちに最新の情報を伝えることができる。

課題である藤枝宿と岡部宿の連携についても、それぞれの施設やお店がお互いの情報を発信しあうことで、より幅広い情報発信連携ができる。また、観光地図には載らないような、季節の風景、住民の日常活動（蓮花寺池の毎朝のラジオ体操など）も、貴重な情報として発信できる。

また、マップに掲載した施設やお店には、固有のハッシュタグ（#**EDO_HW）をつけた。マップに掲載していない施設や店なども**にお店の名前などを入れ、つぶやくことで、新しい固有のハッシュタグを付けた情報発信ができるようにも工夫した。

(3) 実績・成果と課題

作成したQRコードを張り付けた藤枝ツイートマップ（B2版）は下図のとおり。





ツイッター画面（藤枝蓮花寺池公園）。右のQRコードを読むとツイッターの蓮花寺公園に接続



マップに掲載した施設やお店などには、A4番のパネルを作成、配布した。施設やお店に訪れた人たちが、パネルのQRコードを読み込むとその施設やお店のツイッターでつぶやきを読むことができ、その場でつぶやくと、施設やお店のツイッターページに追加される

(4) 今後の改善点や対策

マップに掲載した施設やお店が自らツイッターに投稿することで、内容が充実され、施設やお店のPRにもなる。積極的な活用をお願いしていく。また、本研究では紙ベースのマップを作成したが、スマホやタブレットなどで直接見ることができるグーグルマップなどを使ったマップにも進化させることができる。この仕組みは、藤枝市だけでなく、全国、世界のどこでも使える仕組みだと考える。ツイッターは世界言語に対応しているので、外国人がお国の言葉で発信することで、例えば藤枝を世界で紹介していくことにつながる、更なる進化を目指したい。

5 地域への提言

藤枝市には、2月7日に、説明会を実施した。担当の街道・文化課からは好意的な評価をいただいた。先に示したQRコードの入ったパネルを施設やお店で活用し、新たな情報を常に追加していくよう依頼をしていく。また、2月8日の静岡新聞朝刊に紹介されたので、広く活用されることを望む

6 地域からの評価

このマップの活用は、これから始まる。マップで紹介した施設やお店の評価を随時伺いながら、マップが成長する仕組みをさらに追及していく。